

IV. 外部評価項目別評価結果等

学外外部評価委員 7 名からいただいた評価結果について、項目ごとにまとめたものを次に示す。
評価は 5 段階評価とし、各レベルは「5: 特に優れている (5 点)」、「4: やや優れている (4 点)」、「3: 普通 (3 点)」、「2: やや劣っている (2 点)」、「1: 劣っている (1 点)」とし、各評価レベルの件数・得点と平均評価点を示す。

なお、「評価の理由・ご意見・ご助言等」(自由記述) については、任意回答とした。

※「学外外部評価委員」欄の記号は、4 ページの外部評価委員一覧と順不同である。

【 ①学務関連 】

(1) 教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの基本理念、輩出する人材像は、社会の要請を反映したものになっていますか。

評価	5 特に優れている (5 点)	4 やや優れている (4 点)	3 普通 (3 点)	2 やや劣っている (2 点)	1 劣っている (1 点)	合計点 (35 点満点)	平均 評価点 (5 点満点)
件数	6	1	0	0	0	7	4.9
得点	30	4	0	0	0	34	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	本年 GX ビジョン 2040 が掲げられ、GX、DX による既存の産業の革新や地域の課題に寄り添いながら新しい価値・サービスを創造していくことが求められており、社会の要請を反映している。
B	大学等教育機関だけでなく、行政や経済界の意見を踏まえ、今後の我が国に必要な人材像の育成に適したプログラムを志向されている。
C	基本理念と人材像は、教育 DX や Society5.0、SDGs などの社会的要請を的確に反映しており、教育課題の解決に向けた人材育成の方向性が明確である。特に多様な専門分野との連携、地域課題への対応、デジタルとアナログによる教育実践の融合が組み込まれている点が評価できる。
D	基本理念及び人材像は、教育分野の DX 化対応などの社会的要請を反映したものになっていることから、教育分野における DX 関連を推進する人材育成が期待できる。
E	教育に及ぼす影響を理解するためには、教育学や心理学の知見が大切ですね。
F	本プログラムは、Society 5.0 や教育 DX の政策と整合し、地域や産業界の課題解決に資する理念を明確に掲げています。特に、人文社会科学とデータサイエンスを融合させるという方向性は、AI 時代において人間中心の価値を創出するために不可欠であり、社会的意義が非常に高いと評価します。

(2) 教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムのカリキュラムは、必要な内容を含み、体系的な編成となっていますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	4	3	0	0	0	7	4.6
得点	20	12	0	0	0	32	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	初年度であり改善の余地はあると思われるが、教育・ソーシャルデータサイエンスとも必要な科目が準備されている。
B	経済団体の立場からは、特にソーシャルデータサイエンスプログラムに、大いに関心を持っているが、今後、特に必要となる「エビデンス・ベースド」のアプローチを幅広く学べるプログラムとなっている。
C	多分野融合を意識した設計であり、学生が広い視野を持って課題に取り組む力を養う内容となっている。特に教育データサイエンスのカリキュラムは、教育・心理・データサイエンスの基礎を網羅し、理論と実践の両面から学修できる構成となっている。地域連携科目や実践演習も含まれており、現場との接続性も高い。
D	DX やデータサイエンス、さらには教育及び心理学に関する科目をバランスよく設定されており、教育とデータサイエンスを融合するカリキュラムとして評価できる。また、地域と協働して進める実践的科目もあり、実践力も兼ね備えた人材育成に適した編成となっているといえる。 入学者の学修歴にもよるがもう少し教育学・社会科学関係の内容があってもよいかと考える。教育データの分析に関しては教育社会学等の先行実績も活用できるのではないかと考える。
E	課題が出てきたら、その都度検討してください。
F	教育学・社会科学とデータサイエンスを横断的に学べる体系的なカリキュラムは、既存の大学院教育にはない独自性を持っています。さらに、社会課題・地域課題の解決など実践的な演習や異分野協働を重視しており、理論と実践のバランスが取れた構成になっている点を評価します。
G	学部、修士、博士課程の系統の周知と理解

(3) 学務関連活動を企画・運営する上で、学内の関連部局と連携し、必要な運営体制が適切に整備され、機能していますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	3	4	0	0	0	7	4.4
得点	15	16	0	0	0	31	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
B	事務局の方々が自らの教育の質を高め社会に役立つ人材を育成されようとしている熱意が感じられる。
C	学務関連活動の企画・運営においては、学務委員会、入試委員会、広報委員会、評価委員会など、学務運営に必要な機能を担う委員会が組織され、各委員会に教員が参画することで、意思決定や情報共有の体制が確立されている。
D	プログラム内において、学務関連の委員会（学務委員会・入試委員会・評価委員会など）の委員をすべて配置し、適切な運営体制を整えている。また、研究科の委員会組織と連携して運営していることから、適切に機能しているといえる。
E	組織のより機能化のため、頑張ってください。
F	学内の関連部局と連携し、安定した運営体制を構築していることが伝わりました。今後さらに情報科学部と連携を強化することで、今後の発展においても大きな強みとなるのではないのでしょうか。
G	教育学系以外の協力体制

(4) 教育リソース（ICT 環境，統計データ利活用等）は適切に整備されていますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	4	2	1	0	0	7	4.4
得点	20	8	3	0	0	31	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	教室や機器の整備，外部講師の活用，社会人学生の受入体制等，必要なリソースは整備されている。
C	講義室に PC 対応机・椅子，プロジェクタ，録画・配信システムが導入され，iPad や Surface Pro，機械学習用 PC，生成 AI 解析用高性能 PC 等の ICT 機器も配備されている。
D	DX に関する内容を学ぶのに必要な設備として，PC 対応机，録画・配信システム，ワークステーションなどが設置されており，適切な環境を整備しているといえる。
F	ICT 環境や統計データの活用体制が整備されており，学修支援の基盤が充実しています。特に，実践的な学びの環境は，他大学にはない特色だと思います。

【 ②学生の受入れ 】

(5) 学生の受入れについて，入学者受入方針に沿った，適切な体制により受入れが行われていますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	4	3	0	0	0	7	4.6
得点	20	12	0	0	0	32	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
C	研究科内に入試実施委員会を設置し，書類審査・口述試験・学力試験を組み合わせた総合評価を実施しており，アドミッション・ポリシーに沿った受入れが行われている。
D	プログラム長及び入試委員を中心とした入学試験実施体制を整え，アドミッション・ポリシーに沿って，書類審査・口述試験・学力試験による総合評価を実施しており，適切な体制で実施されているといえる。
E	多様な分野，一般や社会人等受験生が異なるため，入試結果や入学後の状況を分析していただきたい。
F	入学者受入方針に沿った適切な体制が整備されており，今後の発展に期待できます。社会人や異分野出身者の受け入れを視野に入れている点も評価できます。
G	学部生からの積極的な入学意欲の向上

(6) 学生の受入れについて、入学定員に対して適切な数の入学実績が上がっていますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	0	1	6	0	0	7	3.1
得点	0	4	18	0	0	22	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	本事業の認定と学生の募集工程がずれていたこと等から初期の実績は低調だったと思われる。
B	プログラムはまだ始まったばかりであり、今後に大いに期待する。
C	通常年2回の入試が1回しかできなかったことが主たる原因であり、具体的な広報可能時期等やむを得ない事情も考慮すべきであるが、入学実績は定員に対して十分とは言えない。今後の増加に期待したい。
D	2025年度の入学試験（通常9月・2月の2回であるが当該年度は2月のみ）では、定員10名に対し受験者7名で5名が合格・入学している。定員の半数しか確保できていない。2026年度の入学試験（9月入試）では受験者3名で3名が合格しているが、定員の確保にはさらなる努力が必要だと考えられる。学校教育現場では各種学力調査の分析と実践改善の必要性が大きく、指導主事等の力量向上が求められている。このような人材の入学を促進する方策があればよい。
E	時期的にやむを得ないと思います。
F	本プログラムの価値、目指す姿と効果を上手く発信することでさらなる入学希望者の増につながると思います。
G	定員が十分に満たされていない。

【 ③学生生活・進路関連 】

(7) 学生入学後の初期指導・オリエンテーションは充実していますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	5	2	0	0	0	7	4.7
得点	25	8	0	0	0	33	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
C	履修手続き，人権尊重，ハラスメント防止，研究倫理，安全衛生教育，カリキュラム概要の説明，教職員・学生の自己紹介も行っており，学生入学後の初期指導・オリエンテーションは充実している。
D	入学後に必要となる各種手続や研究を進める上で必要となる倫理教育，さらには学生生活で必要となる支援体制などについて丁寧に説明しており，充実しているといえる。
E	所属学生の声聞き，安心しました。
F	十分に対応されていると思います。

(8) 学生のニーズに応え得る学習相談・キャリア相談・ハラスメント相談の体制を整備し、助言、支援が行われていますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	5	2	0	0	0	7	4.7
得点	25	8	0	0	0	33	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	適切な相談窓口が設けられており、留学生に対しても対応されている。
C	学習相談・キャリア相談・ハラスメント相談に対応する相談窓口が複数設けられており、学生のニーズに応える相談体制は網羅的に整備されている。
D	学習相談・キャリア相談・ハラスメント相談に対応する相談窓口は大学全体で整えており、それらの利用について周知をしている。また、指導教員以外の教員との交流会も設定しており、学生が教育研究以外のことについても気軽に相談できる環境を作っている点も評価できる。
E	学生に直接アンケートをしたらどうですか？
F	キャリア相談や学習相談の体制が整っており、学生支援に対する配慮が感じられます。今後、企業や自治体との連携をさらに強化することで、修了後のキャリアパスがより明確になることを期待します。

【 ④DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業 】

(9) DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業の実施計画・継続性は、十分なものになっていますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	4	2	1	0	0	7	4.4
得点	20	8	3	0	0	31	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	設置された学位プログラムは、外部評価結果等を反映して改善を行う体制構築など補助期間終了後も継続的に実施できる体制が準備されている。
B	今後の推移を見守りたい。是非、幅広く PR して頂きたい。
C	令和 9 年度以降の教育人間社会科学研究科新構想により、事業継続に向けた方向性は明確である。一方で、具体的な実施計画や財源、人材確保の詳細が示されておらず、継続性を担保するための具体策が不透明である。
D	現在構想中の令和 9 年度以降に名称変更となる教育人間社会科学研究科において、本事業を実施する体制を計画していることから継続性は示されている。課題としては、事業終了による経済的支援がない状況での教員確保などについて、大学の措置を明確にする必要がある。
E	修了者が、将来、指導主事や指導教諭あるいは大学の教員になりモデルになってほしい。
F	実施計画は、既存の教育資源や学内連携を活かしながら、企業・自治体との協働を通じて実践性を高める工夫がなされており、着実な展開が期待されます。さらに、社会人受講や夜間開講などリカレント教育への対応も盛り込まれており、持続可能性の観点からも優れています。今後は、情報科学部との連携をさらに強化することで、教育内容の高度化と継続的な発展が図られると考えられます。

(10) DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業選定時において付された留意事項への対応は、適切に行われていますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	6	1	0	0	0	7	4.9
得点	30	4	0	0	0	34	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	人材育成像については、学生の教育成果を自治体・企業等の関係者により評価され次年度に反映する計画が立てられていること、またソーシャルデータサイエンスのプログラム内容はデジタル企業の事例を踏まえた教育等即戦力人材養成を考慮した対応が行われている。
C	外部評価とフィードバックを教育改善に活用する方針は適切と評価できる。具体的な対応として、学生が「多分野データ解析実践演習」などで社会課題解決型の成果を作成し、その実効性や付加価値を自治体・企業担当者が評価する仕組みを導入予定であること、また修了後の就職先へのアンケート実施について、評価できる。
D	選定時に付された留意事項については、修了後に就職先へのアンケートを実施することなど、その対応を明確に示しており適切に対応することが示されている。
E	大学の担当教員が、修了生を定期的に面談する事もありかな？
F	選定時に示された留意事項に対して、丁寧かつ着実な対応がなされている印象を受けました。特に、教育内容の体系化、学際的連携の強化、地域・産業界との協働、そして持続可能な運営体制の構築に向けた取り組みが具体的に示されており、改善の方向性が明確です。今後も、外部評価や学生の声を反映しながら、柔軟かつ戦略的に事業を進化させていく姿勢が感じられ、非常に前向きな印象を持ちました。

【 ⑤その他 】

(11) 他教育機関・企業・自治体等との連携は十分に活用されていますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	2	5	0	0	0	7	4.3
得点	10	20	0	0	0	30	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	東広島市との連携等関係機関との連携が準備・実施されている。
C	教育データサイエンス科目において企業等から外部講師を招き、データサイエンスや DX に関連する最新動向を学ぶ機会を提供している。また、実践力養成科目では東広島市と連携し、地域課題解決型の教育を実施しており、他教育機関・企業・自治体との連携を積極的に活用しているといえる。一方で、連携は授業科目に限定される傾向があり、共同研究や長期的なインターンシップなど、より深い協働の仕組みが不足している。
D	教育データサイエンス科目では、教育現場の現状把握や最新の状況を知る機会として、自治体や企業等から外部講師による授業を展開しており連携は取れていると考えられる。可能であれば、インターンシップや一定期間の派遣などを行い、より高度な連携体制をとることが望まれる。 また国立教育政策研究所ではデータセンターを設置し、全国学力学習状況調査や OECD・PISA 調査, TALIS 調査等のビッグ・ローデータを集積している。研究所ではその分析にあたって大学研究者との連携協力を必要としており、そこに参画することも有用ではないか。
F	企業・自治体との連携が積極的で、地域社会との協働を重視している点を高く評価します。
G	今後より多くの実績や連携を期待。

(12) 情報発信（広報，ウェブサイト，シンポジウム，セミナー等）は十分に行われていますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	1	5	1	0	0	7	4.0
得点	5	20	3	0	0	28	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	シンポジウム・セミナー等も行われている。
C	大学院生募集チラシの配布や専用ウェブサイトから情報を発信している。さらに、公開シンポジウムや説明会を数回開催しており、広報活動は多様な手段で展開されている。しかし入学実績では受験者数が定員に達しておらず、広報活動の効果については十分であるとは言えない。
D	大学院のホームページに加え、プログラム専用のホームページを作成し、プログラムに関する情報発信を行っている。また、大学院生募集チラシの配布や公開シンポジウムや説明会を実施している。シンポジウム参加者数は相当数いることなどから、情報発信は一定の成果があると考えられる。ただし、入学者増加につながる工夫は必要だと考えられる。
E	広島大学の関係学部生にも広報をよろしくお願いします。
F	広報活動については、今後さらに情報発信を強化（内容・手法）することで、より多くの学生や社会人に魅力を伝えられると考えます。
G	今後より幅広く周知を期待。

【 総 合 】

(13) 教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの活動状況について、総合的にどのように評価できますか。

評価	5 特に優れている (5点)	4 やや優れている (4点)	3 普通 (3点)	2 やや劣っている (2点)	1 劣っている (1点)	合計点 (35点満点)	平均 評価点 (5点満点)
件数	4	3	0	0	0	7	4.6
得点	20	12	0	0	0	32	

学外外部 評価委員	評価の理由・ご意見・ご助言等
A	GX, DX による既存の産業の革新や地域の課題解決が求められている中、人文人間社会科学系の教養・知識を持ちながらデータサイエンティストとして活躍できる人材やデジタル技術を駆使し新たな価値・サービスを創造できる人材は今まさに企業が育成し求めている資源であり、地域の基幹大学が取り組まれていることを心強く思います。
B	プログラムの狙いもプログラムの内容も時宜を得たものと考えます。引き続き、よりよいプログラムになるよう継続的な改善に努めていただけたらと思います。
C	プログラムは、社会的要請に応える明確な理念と体系的なカリキュラムを備え、学務体制は概ね整備されている。ICT 環境や教育リソースの充実、地域との連携による実践的教育も評価できる。一方で、入学実績は定員を下回り、広報の効果やターゲット層への訴求に課題がある。
D	入学者や入学予定者の背景が多様であり、入学目的も教育とデータサイエンス（ICT や生成 AI 活用など）に関する教育研究を目指していることから、教育データサイエンスプログラムの設置目的に沿ったものとなっている。また、自治体や企業との連携もあり、社会的期待に応えるように進められていると考えられる。入学者数の確保という課題はあるものの、教育データサイエンスプログラムでの教育研究を十分周知すれば、入学者増加につながると考えられることから、総合的には評価できるものである。
E	学生（元中学教員，社会人）の声を聞き、大いに期待します。意欲のある学生を望みます。
F	本プログラムは、学際性・社会的意義・実践性のいずれにおいても優れており、AI 時代における人材育成の新しいモデルとして大きな期待を寄せています。今後、キャリア支援や持続可能な運営体制の強化を図ることで、さらに発展すると考えます。
G	教育現場に有為な人材育成である。

(14) その他、これからの教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムに何を求めますか。ご意見をご入力ください。

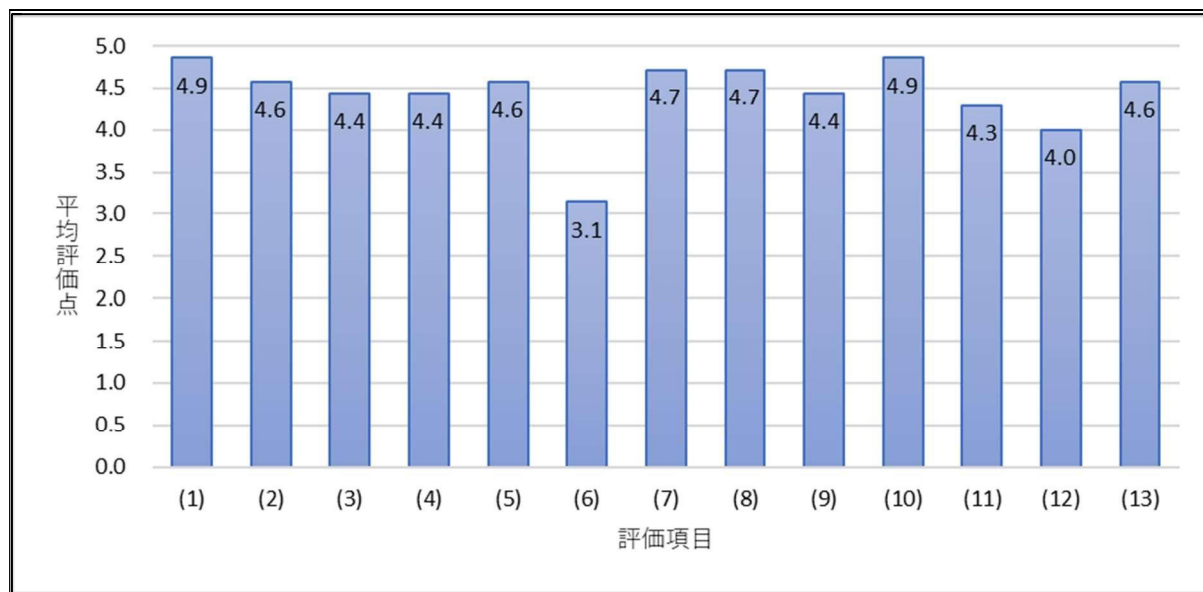
学外外部 評価委員	ご意見・ご助言等
A	修士課程・博士課程での教育を実施されながら、学士課程への設置・反映も社会が求めていると考えます。
B	プログラムの継続にあたっては、出口（就職）にどのように繋がっていくかが、重要だと思いますので、企業の人材確保の観点から、引き続き経済界との対話・情報共有をお願いしたい。 地域企業も、今後は益々、海外からの人材を採用する傾向にありますので、是非、海外留学生にも魅力あるプログラムにさせていただき、日本企業に就職していただける高度外国人材の養成にも目配りをしていただけたらと思います。
C	①入学生確保に関して、今後、博士課程後期のプログラムを展開するにあたり、このプログラムで何が学べるかだけでなく、その学びによって学生の将来・人生にとってどんな良いことが生じるのかなど、情報発信の質（内容）についても工夫していただきたい。 ②今後、本格化すると思われる研究指導などにおいて、学外だけでなく、学内のリソースを十分に活用できる体制を整備、運営していただきたい。
D	まずは修了生が学修成果を社会で発揮すること、あるいは後期課程に進学して専門的研究者として成果を示すことが求められよう。現在、多くの大学で情報科学部や研究科、データサイエンス学部や研究科が設置されている。それらとの差異化が必要であろう。方法論としてのデータサイエンスに加え、教育科学や社会科学にも精通して目的と方法を整合的に省察できる人材の育成を期待します。
E	この事業に関わる皆さんが、夢を持って頑張ってくださいことを祈っています。
F	今後の教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムには、AI時代において人間が果たすべき役割を再定義し、単なる技術習得にとどまらない「価値創造型人材」の育成が求められます。特に、AIやデータ分析を社会課題の解決に応用する力、倫理的判断力、多様なステークホルダーとの協働力を育む教育設計が重要だと考えます。 また、米国における若年層の就職困難の事例が示すように、AIによって代替されにくいスキルや経験を大学院段階で獲得できるよう、実務経験（インターンシップやPBL）との接続を強化することが望まれます。さらに、学内情報科学部との連携を通じて、技術的専門性と社会的応用力の両面を高める教育が展開されることを期待します。 東広島市教育委員会としても、積極的に連携を図りたいと考えています。
G	理論にとどまらず、教育行政、学校、企業との密接な連携のある研究と、分野を先導する人材育成

V. 評価結果を踏まえた今後の改善策

1. 平均評価点一覧

【 ①学務関連 】		平均 評価点 (5 点満点)
(1)	教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの基本理念，輩出する人材像は，社会の要請を反映したものになっていますか。	4.9
(2)	教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムのカリキュラムは，必要な内容を含み，体系的な編成となっていますか。	4.6
(3)	学務関連活動を企画・運営する上で，学内の関連部局と連携し，必要な運営体制が適切に整備され，機能していますか。	4.4
(4)	教育リソース（ICT 環境，統計データ利活用等）は適切に整備されていますか。	4.4
【 ②学生の受入れ 】		平均 評価点 (5 点満点)
(5)	学生の受入れについて，入学者受入方針に沿った，適切な体制により受入れが行われていますか。	4.6
(6)	学生の受入れについて，入学定員に対して適切な数の入学実績が上がっていますか。	3.1
【 ③学生生活・進路関連 】		平均 評価点 (5 点満点)
(7)	学生入学後の初期指導・オリエンテーションは充実していますか。	4.7
(8)	学生のニーズに応え得る学習相談・キャリア相談・ハラスメント相談の体制を整備し，助言，支援が行われていますか。	4.7
【 ④DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業 】		平均 評価点 (5 点満点)
(9)	DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業の実施計画・継続性は，十分なものになっていますか。	4.4
(10)	DX 推進人材育成大学院ダブルメジャー事業選定時において付された留意事項への対応は，適切に行われていますか。	4.9
【 ⑤その他 】		平均 評価点 (5 点満点)
(11)	他教育機関・企業・自治体等との連携は十分に活用されていますか。	4.3
(12)	情報発信（広報，ウェブサイト，シンポジウム，セミナー等）は十分に行われていますか。	4.0

【 総 合 】		平均 評価点 (5 点満点)
(13)	教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの活動状況について、総合的にどのように評価できますか。	4.6
(14)	その他、これからの教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムに何を求めますか。ご意見をご入力ください。	



2. 今後の改善策

(1) 全体的分析

評価対象 13 項目のうち 12 項目において、平均評価点が 4.0 以上であったことから、両データサイエンスプログラムの順調な開始・運用が評価されたと言える。特に、項目 (13)、すなわち「教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムの活動状況について、総合的にどのように評価できますか」は、平均評価点 4.6 であり、「優れている」方向に総合的評価がなされた。これは、プログラム開始までの準備期間において、担当予定教員と支援室職員とが密接に連携しつつ、学務・入試・実習・学生生活等に係る様々な事項について、細かなところまで検討した成果であると考えられる。今後は、学生の進路に係る指導等についても、就職先の紹介・確保や博士課程後期への進学指導を含め、継続的・積極的に取り組んでいく。

ただし、項目 (6)、すなわち「学生の受入れについて、入学定員に対して適切な数の入学実績が上がっていますか」については、平均評価点が 3.1 であった。評価としては「普通」という解釈であるが、今後の課題として、その解決に向かうべき最優先事項となった。

(2) 項目別分析

上記(1)で指摘したように、入学定員に対する入学実績に関する質問項目(6)は、「普通」という評価であった。評価委員のご意見・ご助言の中に、時期的な問題や今後の展開を期待する記述もあったが、「入学実績は定員に対して十分とは言えない」(C委員)や、「定員が十分に満たされていない」(G委員)などがあった。これと関連する項目(12)、すなわち「情報発信(広報、ウェブサイト、シンポジウム、セミナー等)は十分に行われていますか」では、平均評価点が4.0であった。3名の評価委員が「3」をつけていた。評価委員のご意見・ご助言では、「広報活動の効果については十分であるとは言えない」(B委員)や、「入学者増加につながる工夫は必要だと考えられる」(C委員)などがあった。入学者の確保に向けた広報活動は極めて重要であり、その点を、質と量の2つの観点から再検討していく。SNSや動画サイトでの広報活動など、現代学生の情報受信の特性を踏まえた、よりインパクトの高い方法の導入も必要である。

評価点対象の項目ではないが、最後に設定した項目(14)、すなわち「その他の教育・ソーシャルデータサイエンスプログラムに何を求めますか。ご意見をご入力ください」では、各委員による貴重なご意見・ご助言が見られた。

例えば、B委員からは、「企業の人材確保の観点から、引き続き経済界との対話・情報共有をお願いしたい」や「日本企業に就職していただける高度外国人材の養成にも目配りをしていただけたいと思います」を、またG委員からは、「理論にとどまらず、教育行政、学校、企業との密接な連携のある研究と、分野を先導する人材育成」を頂戴した。これらは、実践面も重視した、社会実装を伴うグローバル人材の育成が重要であるという示唆である。現在のM1生には、学部卒業生(日本人と外国人留学生)や社会人学生が在籍している。今後も、両プログラムが、異なる背景をもつ学生の共修の場、実践面を重視した共同研究の場となりうるよう、研究指導を積み重ねていく。

さらに、C委員やD委員からは、両プログラムの学年進行に伴う博士課程後期の設置を踏まえたご意見・ご助言を頂戴した。具体的には、「このプログラムで何が学べるかだけでなく、その学びによって学生の将来・人生にとってどんな良いことが生じるのかなど、情報発信の質(内容)についても工夫していただきたい」(C委員)や、「まずは修了生が学修成果を社会で発揮すること、あるいは後期課程に進学して専門的研究者として成果を示すことが求められよう」(D委員)、などである。

データサイエンス分野は、他の学問分野・領域の研究者が自らのテーマを探究する時、方法論あるいはツールとして利活用される点に大きな特色がある。換言すれば、データサイエンス自体を研究対象として真理を探究・解明する研究としてのテーマ設定が難しい側面がある。しかし、そのことを考慮した上で、D委員のご助言、すなわち、「方法論としてのデータサイエンスに加え、教育科学や社会科学にも精通して目的と方法を整合的に省察できる人材の育成を期待します」を実現していくことが重要である。今後、急速に発達する生成AIなどのデジタルツールを学校教育や経済活動でどのように利活用するかは大きな課題となる。それゆえ、その適切な運用を理論面で支える教育学、心理学、倫理学、経済学、社会学などの基礎知識は、データサイエンス研究を進めるに当たっても重要な専門知識となる。それを有する学生の受け入れを推進し、博士課程前期・後期の両方において、関連分野・領域を専門とする複数の教員を副指導教員とする研究指導体制を構築・維持し、学生の研究能力を高めていく。